

実践のまとめ（中学校 1 年 社会科）

授業公開日 令和 6 年 11 月 26 日 第 5 校時

指導者 佐渡市立佐和田中学校

教諭 小田 和也

1 研究テーマ

歴史的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

中学校学習指導要領解説社会編では、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」ことが求められている。思考・判断したことを説明したり、議論したりするためには、社会科における各分野の見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる力が必要になると考える。

これまでの自分の実践を振り返ると、単元の意思決定段階で、「単元を貫く学習課題」を設定し、社会科における各分野の見方・考え方を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる力を育もうと努めた。この方法では、既習事項から「単元を貫く学習課題」に関連すると考えられる社会的事象を選択することはできた。しかし、社会的事象を列挙したり、習いたての知識に偏った説明をしたりするに留まった。結果、社会科における各分野の視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定する姿が十分には具現できず、対話をさせても社会的事象について情報交換するのみとなった。

これらは、①関連付ける社会的事象を選ぶ際の視点が不明確だったこと。②複数の社会的事象を関連付けた上で意思決定する必要性が弱かったことが原因として考えられる。

そこで本研究では、①の課題を解決するために、課題把握段階で、歴史的な見方・考え方を働かせたくなるような「単元を貫く学習課題」を提示する。また、②の課題を解決するために、意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシート（以下、WSと表記）を使って「単元を貫く学習課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。これらによって、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる姿が期待できると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 課題把握段階で、歴史的な見方・考え方を働かせたくなるような「単元を貫く学習課題」を提示する。

生徒が歴史的な見方・考え方を働かせ、関連付ける社会的事象を明確にさせるために、時期や推移、因果関係を明らかにしなければ解決できない条件を盛り込んだ、「単元を貫く学習課題」を提示する。提示する際、関連付ける社会的事象を生徒が認識しやすいよう、どんなことを明らかにしたら意思決定できそうかを問い、タブレット端末で作成したワンペーパーポートフォリオ（以下、OPPと表記）に記録させる。この「単元を貫く学習課題」を課題把握段階から提示することで、生徒が単元全体を通して時期や推移、因果関係などの歴史的な見方・考え方を働かせ、関連付ける社会的事象を明確にできる姿を期待した。

② 意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたWSを活用し、「単元を貫く学習課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。

複数の社会的事象を関連付けた上での意思決定を促すために、単元の意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたWSを活用し、「単元を貫く学習課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。考える視点の重要度を比較・検討することで、視点同士の関連に目を向けやすくなる。また、順位付けする中で、なぜ自分がその視点を重要と考えたのかを説明する際に、根拠に厚みを出そうとする意識が強くなる。結果として、既習の複数の社会的事象を関連付ける必要性が高まり、社会的事象を関連付けた上での意思決定がなされやすくなると考えた。

(3) 研究テーマにかかわる評価

対象生徒を中心とした学習集団の学びの様子（つぶやき、発言、WSへの記述等）から検証する。

- ①課題把握段階（1次）…「単元を貫く学習課題」に対する予想の記述で、時期や推移、因果関係に関する発言や記述がなされているか。
- ②課題追究段階（2次）…「単元を貫く学習課題」を解決するために、必要になりそうな社会的事象を選び、関連付けようとしているか。
- ③課題解決段階（3次）…「単元を貫く学習課題」に対する自分の考えをまとめようとする際に、時期や推移、因果関係に着目しながら社会的事象を関連付けて、意思決定できているか。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

武家政治のはじまり（中学社会歴史未来をひらく 教育出版）

(2) 単元の目標

貴族にかわって武士が台頭した理由を考える中で、武士の政治進出と展開、農業や商工業の発達、新仏教のおこりが相互に関連することに気付き、中世の変化の様子を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
武家政治の始まりに関する、社会的事象の意味や背景を理解し、絵図などの意味を読み取ることができる。	武家政治の始まりに関して、社会的事象を比較したり、関連付けたりしながら多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現できている。	武家政治の始まりに関する課題に対し、主体的に追究し自分なりの考えを他者との対話を通して、粘り強く考察、表現しようとしている。

(4) 単元と生徒

①単元

本単元は、貴族に代わって武士が政治の実権を握るまでのながれについて、歴史のながれを大観させながら理解させたい単元である。その際、政治、経済、外交などの多面的な部分と、貴族・武士・民衆等の多角的な立場から、生徒が考察できるような授業展開、単元構想が必要になる。また、小学校の既習内容をふまえつつ、小学校では明らかにされなかった、歴史的なながれや因果関係等を、生徒の理解を増やしながら、自分なりの考えをまとめていける手立てを講じる必要があると考える。

②生徒

本学級の生徒は、社会科に対して嫌いと感じている生徒が多数在籍している。嫌いな

理由として、「覚えることが多い」「何を学んでいるかよくわからない」といった意見が多数みられる。社会科は、単なる暗記科目ではなく、様々な社会的事象の意味や背景を理解し、課題に対して他者との対話を通して自分なりの考えを表現できる創造的で社会とつながっている教科だということを生徒に自覚させたい。そうすることで、社会科を学ぶ楽しさを理解し、自分なりの考えを追究できる姿を実現したい。

(5) 単元の構想 ※別紙として、単元構想図を添付

次	時	○学習活動	◎主発問または・本時の課題	評価		
				知識技能	思考判断表現	人間性
1	1	○小学校で習った平安時代、鎌倉時代のちがいを思い出す。 ○単元を貫く課題を確認する。 ○単元を貫く課題に対して、何がわかれば解決できそうか考える。 ○単元を貫く課題に対する現時点の自分の考えをまとめる。	◎貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ貴族に代わって武士が台頭したのか。		○	○
2	2	○武士の発生と武士団について理解する。	・武士はどのようにおこり、成長していったのか。	○		
	3	○院政と平氏政権の成立について理解する。	・平氏は、どのように政治の実権をにぎり、どのような政治を進めたか。	○		
	4	○鎌倉幕府を中心とした、武家支持の成立と展開について理解する。	・鎌倉幕府を中心とした武家政権は、どのように成立し、勢力を拡大したのか。	○		
	5	○鎌倉時代の人々の生活について理解する。	・鎌倉時代の人々は、どのような暮らしをしていたのか。	○		
	6	○鎌倉文化と新しい仏教について理解する。	・鎌倉時代には、どのような文化や宗教が生まれたのか。	○		
3	7 (本時)	○単元を貫く学習課題に対する自分の考えをまとめる。 ○自他の考えを比較し、対話を通して社会的事象を関連づけ、課題に対する意思決定をする。	◎貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ貴族に代わって武士が台頭したのか。		○	○

4 本時の展開（本時 7 / 7 時間）

(1) ねらい

貴族に代わって武士が台頭した理由を、根拠をしぼって順位付けをさせることを通して考える中で、根拠同士が関連していることに気づき、自分なりに意思決定することができる。

(2) 展開の構想

- ①既習事項を使って、自分の考えを根拠に基づいて対話をさせ、疑問点や意見を述べさせる。
- ②疑問点や意見に対する情報を収集させ、自分の考えを練り上げさせる。
- ③再度、考えの交流を行い、自分の考えを最終的にまとめる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけ (T) と 予想される生徒の反応 (S)	□評価 ○支援 ◇留意点
-----------	------	---------------------------------	--------------

導入 (10)	○本時の課題を確認する。	生徒 A 院政、天皇 生徒 B 封建制度、源氏・平氏 単貫課題に関わる社会的事象は選んでいる。 T1:今日は何をする？ S1:なぜ貴族に代わって武士が台頭したのか、自分の考えをまとめます。 ◎なぜ貴族に代わって武士が台頭したのか。 T2:どんな根拠で書けそう？ 生徒 A 天皇とのよい関係 生徒 B 戦いに勝った 選んだ社会的事象と単貫課題のつながりを意識して、自分の考えを作ろうとしてくる。	◇視点を共有化する。 ○根拠がわからない生徒の困り感を全体で共有し、視点の明確化を図る。
活動 1 (15)	○自分が選んだ社会的事象をもとに、根拠をしばって順位付けをする。	T2-1:自分が選んだ社会的事象をもとに、根拠を3つにしばって順位付けしよう。 生徒 A 平清盛、源頼朝は天皇に高い位を任命されているから、天皇を味方につけると台頭できる。 生徒 B 平治の乱や壇ノ浦の戦い、承久の乱などで勝った人が政治の権力をにぎっているから、戦いに勝つと台頭できる。 選んだ社会的事象を関連付けて、根拠を明らかにしてくる。	◇根拠をしばって順位付けする ○根拠を3つ出せない生徒の困り感を全体で共有し、3つの根拠を明らかにする。
活動 2 (20)	○根拠をもとにして結論を出す。 ○結論の内容について交流する。	T2-2:根拠をもとにして、結論を考えよう。 生徒 A 天皇や上皇に頼られる近い関係になって戦いに勝ち、権力をもつことで、地位が上がり、貴族より上に立てるから。 生徒 B 戦いに勝って天皇や上皇に認められ、政治のしくみをつくったから。 T3:考えを交流しよう 生徒 A 政治を貴族にかわってできるようになったから台頭したんだ。 生徒 B 位も貴族より上の立場になったから台頭できたんだ。 貴族に代わって武士が台頭した理由を結論付けてくる。	◇根拠をもとに結論を考えさせる。 ○根拠同士を結び付けられない生徒の困り感を全体で共有し、結論を導けるようにする。 ◇結論を交流させる。 ○自分とちがった根拠をもっている人の意見を取り入れられやすくするよう、納得すれば他者の意見を取り入れてもよいことを交流前に伝える。

		【まとめ】 武士が台頭したのは、戦いに勝つだけでなく、天皇や上皇との関係を近くし、政治的にも官位的にも実権をにぎったから。	
--	--	---	--

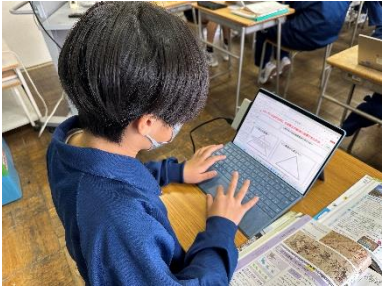
(4) 評価

本時の評価基準	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	評価方法
※評価の観点を右欄に示す。	武家政治の始まりに関して、多面的（政治面、経済面、文化面）・多角的（天皇、貴族、武士、民衆等）に考察し、社会的事象を比較・関連付けて、根拠を明らかにしながら、自分の考えを表現できている。	武家政治の始まりに関して、多面的・多角的に考察しているが、根拠に不明確な部分がある。	・WS ・対話の様子

5 成果と課題

(1) 成果

①「単元を貫く学習課題」を設定したことにより、生徒が本時の振り返りで課題解決に関連しそうな情報（語句）を、OPPにまとめる様子が確認できた。



なお、本単元でのOPPは以下のように、各本時の授業で「単元を貫く学習課題」と関連しそうな情報に優先順位を付けられるようにした。この中でも、「①武士の登場」の振り返りでみられるように、「藤原純友の乱で勝つ」、「平将門の乱で勝つ」という2つの具体的事項を関連付けて、一段階階層の高い「武士団の力UP」という歴史的事象を導き出している。このとき、「推移」と「因果関係」に関する歴史的な見方・考え方を働かせている姿と認識できる。このような考え方ができたのも、「単元を貫く学習課題」を設定した効果だと考える。

単元課題「貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ武士が政治に台頭できたのか。」

＜単元課題の予想＞
貴族の政治が嫌になり、貴族を倒したから(？)

＜何がわかれば課題解決できそうか＞
・平氏と源氏の権力 ・武士の生活

【年表】

- 935年 平将門の乱
- 939年 藤原純友の乱
- 960年 宋がおこる
- 1051年 前九年合戦
- 1083年 後三年合戦
- 1086年 白河上皇が院政を始める
- 1124年 奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂を建てる
- 1156年 保元の乱
- 1167年 平清盛が太政大臣となる
清盛が日宋貿易を行う
- 1185年 平氏が滅びる
源頼朝が守護・地頭を設置
- 1192年 頼朝が征夷大将軍に任命
- 1221年 承久の乱
- 1232年 御成敗式目(貞永式目)制定

＜①武士の登場＞

＜②貴族から武士へ＞

＜③いざ鎌倉＞

＜④弓馬の道＞

＜⑤祇園精舎の鐘の声＞

②意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたWSを活用し、「単元を貫く学習課題」に対する意思決定をさせる場を設定したことで、関連付けを促すことができた。具体的に、本単元では以下のようなWSを活用した。根拠の中で、獲得した語句や情報を関連付けて、一階層高い抽象的な理由（解釈）を導き出している。これらの視点を関連付けて、多面的な考察、結論を導き出せる姿が確認できた。



単元課題：貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ武士が政治に台頭したのか。

【結論】 天皇の補佐だった時期に、様々な力（権力、財力、武力）を手に入れたから。

【第①位の理由】
様々な戦いで勝ったから

【第②位の理由】
武力の他に権力や財力がアップしたから

【第③位の理由】
将軍を信じたから。

【第①位の根拠（具体例）】

平将門の乱や平治の乱などの天皇の護衛のための戦いはもちろん、天皇との戦い（とても強い天皇との戦い）でも勝っていて、武力の上では、武士に勝るものなしというような感じだったから。

【第②位の根拠（具体例）】

戦いで勝って、武力が高まっているけれども、その他に、荘園や土地、米などを手に入れて、その上、太政大臣や征夷大将軍という身分をもらい、政治に参加するようになり、そこで権力、財力、武力が上がったから。

【第③位の根拠（具体例）】

将軍である源頼朝を信じ、清盛との戦いや承久の乱で勝つことができたから。

また、本WSをまとめる途中で、中間発表を行った。その際には、他者と異なる視点があった場合、なぜそう考えるのか対話を通して確認する姿があった。対話では、自分がこの順序にした理由を、推移や因果関係に着目しながら説明できていた。まとめの発表会に終始せず、関連付けを通して理解を深めているこのような姿を確認できたのは、本WSで自他の考え（根拠と理由、結論）を可視化できたことが大きな要因になっていると考える。

なお、全体として、評価規準に照らし合わせた場合の内訳（全27人）は以下のとおりである。

A評価	B評価	C評価
20	6	1

(2) 課題

①歴史的な見方・考え方を働かせられる姿を確認できたが、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせられていると自覚できているか、また単元がかわっても働かせられるかの検討が必要になると考える。また、各分野の見方・考え方を働かせるための「単元を貫く学習課題」の要素はどのようなものか、引き続き模索していく必要がある。

②視点の重要度を明らかにしたWSを活用することで、関連付けが促される姿は確認できたが、生徒がどこまでの語句を活用でき、関連付けをどこまで増やせるのかについて引き続き検討が必要だと感じている。引き続き、他単元や他分野でも本WSが有効であるか検証を続ける必要がある。

6 参考文献

- (1)小原友行「社会科における意思決定」社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994年。
- (2)唐木清志「子どもの「問い」を継続させるための工夫」『社会科教育10月号・750号』明治図書、2021年。
- (3)川端裕介『単元を貫く学習課題でつくる！中学校歴史の授業展開&ワークシート』明治図書、2019年。
- (4)川端裕介『川端裕介の中学校社会科授業 見方・考え方を働かせる課題設定&評価スキル60』明治図書、2022年。
- (5)七里広志『思考ツール×パフォーマンス課題でつくる中学校社会科授業』明治図書、2022年。
- (6)中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校歴史の授業プラン&ワークシート』明治図書、2021年。
- (7)西岡加奈恵・石井英真編『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか』日本標準、2019年。
- (8)峯明秀「社会科における意思決定」社会認識教育学会『新 社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年。
- (9)文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』2017年。

中学校 社会科 「深い学び」を実現する〈単元構想図〉

【単元名】 第2学年 武家政治の始まり（全7時間）

【単元目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
武家政治の始まりに関する、社会的事象の意味や背景を理解し、絵図などの意味を読み取ることができる。	武家政治の始まりに関して、社会的事象を比較したり、関連付けたりし（歴史的な見方・考え方を働かせ）ながら多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現できている。	武家政治の始まりに関する課題に対し、主体的に追究し自分なりの考えを他者との対話を通して、粘り強く考察、表現しようとしている。

ポイントⅠ 単元における「見方・考え方」を働かせた姿を具体的に書く

社会科歴史的分野で働かせたい見方・考え方は、「歴史的な見方・考え方」として、時期や年代、推移、比較、相互の関連などに分類される。本単元で言えば、時期や年代では「武士の台頭はいつから始まったか」。推移では「武士の台頭によって社会（政治）はどう変わっていったか」。比較では「貴族と武士の政治の共通点や相違点は何か」。相互の関連では「貴族（天皇）は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ武士が台頭したのか」といった問いを、生徒が自発的に出せる姿を期待する。

1次

武士、平清盛、源頼朝、鎌倉幕府は知ってるぞ！



なぜ貴族から武士に政治の実権がうつったのかわからない。

単元を貫く学習課題「貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ武士が政治に台頭したのか。」

2次

【学習内容】

- ① 武士の発生と武士団
- ② 院政と平氏政権
- ③ 武家政治の成立と展開
- ④ 鎌倉時代の人々の暮らし
- ⑤ 鎌倉文化と新しい仏教

多くの荘園を手に入れて財力を得たからかな。
例) 武士、平清盛、源頼朝

土地を仲立ちとした主従関係を整え、武士を味方につけて武力を得たからかな。 例) 封建制度(御恩と奉公)

天皇に気に入られて権力を得たからかな。
例) 平治の乱、壇ノ浦の戦い、平清盛、源頼朝



単元を貫く学習課題「貴族は強い権力をもっていたはずなのに、なぜ武士が政治に台頭したのか。」

3次



そもそもいつからが武士の台頭
といってよいのかな？

深める問い(歴史的な見方・考え方を含む)

そもそも貴族と武士の政治の
ちがいはなんなんだろう？



武士が台頭したのは鎌倉幕府が成立した頼朝の頃だと思う。だって、平安時代とちがって、武士たちで幕府を開いて政治を行う権力がある。荘園をたくさんもっているから経済力もある。御家人を従えることで武力もあるから。

ポイントⅡ 生徒が学びを深めていく「学びの文脈」を想定する

1次で、小学校の既習事項と中学校で学ぶ未知の事項を確認し、単貫課題に対する予想と、見通しをもつ課題把握をする。多くの生徒が「戦いに勝ったから」「貴族がダメになったから」という根拠が不明確な予想を出すことが想定される。2次で、平安時代から鎌倉時代までの変遷を確認し、単貫課題に対する情報を集め、整理し、関連付けながら課題追究をする。学んでいくうちに、「天皇に気に入られて権力を得た。」「多くの荘園を手に入れて財力を得た。」「土地を仲立ちとした主従関係を整え、武力を得た。」という理由に気付く。3次で、課題解決のためのまとめの時間をとる。生徒は、権力、財力、武力をもつようになったからと考えてくる。ここで、「そもそもいつからが武士の台頭といえるか。」「貴族と武士の政治の共通点と相違点は何か」等という歴史的な見方・考え方を働かせた「深める問い」が立ち上がる。この深める問いをもとに、武家政治の始まりに対して、より多面的・多角的な考察ができる姿を期待する。